

FREE

ご自由にお持ちください。

No.836  
2023 May

5

岐阜県の森林・林業

も り  
森林のたより

News of the forest

「恵みの森づくりコンソーシアムpresents 森あそび・森まなび  
～森から感じる春の訪れ～」を開催しました!



会場の様子



積みぼぼ世界選手権



枡コースターづくり



ぎふの木のおもちゃ広場



丸太切り体験



展示・販売

●詳細は3ページをご覧ください



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

http://www.g-forestry.or.jp (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
3月1日(水)~ 5月31日(水)	緑の募金(春期)	「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを行います。	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577
未定	狩猟免許試験	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●開催日時は未定(5月末までに県HPにて公示予定) ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	未定 各地域を所管する県事務所、または環境生活政策課(058-272-1111 内線 2921)



イベントカレンダー(一般向け).....	2
「恵みの森づくりコンサート presents 森あそび・森まなび」森から感じる春の訪れ」を開催！.....	3
岐阜県地域森林監理士の認定について.....	3
就任のご挨拶 岐阜県林政部長 久松 一男.....	4
令和5年度 岐阜県林政部予算のあらまし.....	4
山の歳時記(2)3 ハナイカタ.....	6
山のおしよまむし(3)82.....	6
— 毎日が日曜日、大谷翔平選手.....	7
ぎふ木遊館通信.....	8
morinosプログラム紹介!!.....	9
木の香るぎふの施設(122).....	9
坂祝町子育て支援拠点施設(バンビーニ).....	10
森林と人を活かす知恵(124).....	10
私たちの暮らしと身近な自然へ人知れず消えていく生きものたち.....	11
シリーズ「森林・環境税で「緑豊かな清流の国ぎふづくり」(1).....	12
伐採及び伐採後の造林の届出制度のお知らせ.....	13
野鳥のヒナを拾わないで.....	14
山林協会通信12 さざれ石公園を知っていますか.....	14
令和4年度 岐阜県治山林道技術成果発表会.....	15
研究コーナー 花の形の意味を考える.....	16
地域の人 常に学びを続け、自分の世界を広げよう！.....	17
普及コーナー 岐阜県地域森林監理士養成研修.....	18
スマート林業通信(35) 全国初トランシーバー通信システム.....	19
国有林の現場から(79).....	20
岐阜森林管理署でインターンシップを実施.....	21
林業者向けお知らせ.....	22
市況.....	20

目次 Contents



表紙●詳細は3ページをご覧ください。



# 「恵みの森づくりコンソーシアム presents 森あそび・森まなび～森から感じる春の訪れ～」を開催!



▲森の〇×クイズ

恵みの森づくりコンソーシアムは、林業家、木工家、自然案内人などの森にかかわる人から、製造業、観光業などの企業・団体・個人ら多様な業種が集まり、美しい森林を次世代に残すため、森林の望ましい姿、活用方法等について考え実践している組織です。

3月11日(土)に、マーサ21 マーサスクエア(岐阜市)にて、「恵みの森づくりコンソーシアム presents 森あそび・森まなび～森から感じる春の訪れ～」を開催しました。

バードコールづくり、マイ箸づくり、丸太切りなどのワークショップや、木工製品やハチミツなどの販売、森づくりの展示などを行いました。また、つみぼぼ世界選手権、森の〇×クイズのイベントも開催し、来場者の方々に楽しんでいただきました。



▲寄せ木のシロフォンづくり



▲木工製品などの販売

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(4349) 恵みの森づくりコンソーシアム事務局(森林活用推進課)まで

## 岐阜県地域森林監理士の認定について

岐阜県では、平成29年度から、地域における森林の管理及び経営に必要な専門知識を有し、市町村林務行政の支援や民有林経営への助言等を行う本県独自の人材である「岐阜県地域森林監理士」の認定を行っています。

令和4年度は新たに以下の5人を認定し、認定者は合計で32人となりました。県のホームページで、岐阜県地域森林監理士の名簿を公開していますので、関心がある方や支援を受けたい方はぜひご覧ください。

新たに岐阜県地域森林監理士に認定された方々のご活躍を期待しています。

認定番号	氏名	所属
第R04-01号	ひびの 基宏 もとひろ	岐阜県森林組合連合会
第R04-02号	あんどう 雅人 まさひと	株式会社安藤林業
第R04-03号	やすえ 裕治 ゆうじ	高山市
第R04-04号	ひぐち 享二 きょうじ	郡上森林マネジメント協議会
第R04-05号	かわかた 智之 ともゆき	可茂森林組合



認定証書授与式

また、県では、認定した岐阜県地域森林監理士を市町村や林業事業体等の皆様に積極的にご活用いただけるよう、以下のような支援制度を設けていますので、ぜひご利用ください。

### ● 岐阜県地域森林監理士活用事業について

岐阜県地域森林監理士を直接雇用あるいは岐阜県地域森林監理士の所属する組織に業務委託される場合に、その経費の一部を補助します。これまでの主な活用内容をご紹介します。

事業主体	活用内容
市町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 森林経営管理制度に係る業務(対象森林の選定、森林境界の明確化、意向調査等)</li> <li>● 市町村森林整備計画や基本構想等の策定支援</li> <li>● 市町村有林の森林整備、森林経営計画の策定及び実行監理の支援</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
林業事業体 林業関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営改善に資する助言等(進捗管理の仕組みの構築、業務マニュアル見直し等)</li> <li>● 森林経営計画の策定及び実行監理の支援</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

### ● 岐阜県地域森林監理士の派遣事業について(対象:市町村)

県では、市町村の森林経営管理制度等の取組みを一層促進するため、市町村の要請に応じて岐阜県地域森林監理士の短期派遣を実施しています。

派遣に要する経費(報償費、旅費)は県が負担しますので、ぜひご利用ください。

- 例えば…
- 岐阜県地域森林監理士を長期間雇用するほどの業務ではないが、相談したいことがある。
  - 意向調査対象地の選定をどう進めればいいのか助言して欲しい。
  - 間伐が必要かどうか現地と一緒に判断して欲しい。
- など

まずは、地域森林管理支援センター(058-201-5013)までご相談ください。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(4347) 森林活用推進課 森林吸収源対策室 森林吸収源対策係まで



# 就任のご挨拶

岐阜県林政部長 久松 一男

この度の異動で林政部長を拝命しました。重責に身の引き締まる思いですが、皆さまのご協力をいただきながら、精一杯努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

本年4月1日に、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」が施行されました。この条例では、建築物だけでなく、家具、木質バイオマス、土木工事の資材など多様な分野での県産材利用拡大に、市町村、事業者及び県民等のご理解ご協力のもと、「オール岐阜体制」で推進することとしています。具体的には、県で新たに整備する建築物は、関係法令や基準等の範囲内で原則木造化します。また、民間の非住宅建築物の木造化を促進するため、木造構造設計の専門家による相談窓口を設置するほか、県と事業者で県産材利用を推進する協定制度を創設し、県は協定に基づく取組みを支援してまいります。さらに、県産材利用の機運を醸成するため、県民のみならずご参加いただく「フォーラムを県庁ミナモホールにおいて開催します。

また、森林・林業に対する県民の理解を醸成するため「ぎふ木遊館」と「森林総合教育センター(morinos)」を核として、森とのつながりや森林文化の豊かさを段階的、継続的に学ぶ機会を提供します。具体的には、市町村等が行うぎふ木遊館サテライト施設整備への支援や、地域で活動する木育・森林環境教育の指導者が情報交換を行う交流会の開催等を通じて関係者のネットワーク化を図るなど、「ぎふ木育」の全県展開を推進します。

一方、脱炭素社会の構築が世界的に叫ばれる中、森林の二酸化炭素吸収源としての価値は日増しに高まっています。このため、国のJ-クレジット制度を活用して森林の二酸化炭素吸収量のクレジット化を進めるとともに、同制度では対象とならない森林を対象に二酸化炭素吸収量をクレジットとして県が認証する「仮称」G-クレジット制度について、本年10月の施行を目指し、準備を進めています。

また、コロナ禍によりデジタル化が一気に進展する中、リアルな体験ができる森林空間へのニーズも高まっています。本年1月に設立された「ぎふ森のあふる暮らし推進協議会」とも先進事例の紹介を行うセミナー等の開催を通じて森林サービス産業を振興し、山村地域に新たな雇用を創出してまいります。

そして、本県の森林・林業・木材産業をより一層推進していくためには、森林技術者の確保・育成が最大の課題です。このため本年度から、既存の岐阜県林業士制度を見直し、段階別の資格制度を創設することで、森林技術者への門戸を広げるとともに、キャリアアップへのモチベーションを高めることにより、人材の育成と確保を推進してまいります。

いずれにいたしましても、様々な施策を通じて、本県の森林・林業・木材産業をより一層推進してまいりますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。就任のご挨拶とさせていただきます。

林政部では、令和5年度一般会計当初予算の総額は、181億8,735万9千円で、前年度と比較して5億3,165万8千円、率にして2.8%の減額となっております。これは木材加工流通施設の整備に係る国庫補助事業において補助要望額が減少したことによるものであり、この影響を除けば前年とほぼ同程度の予算規模となっております。

# 令和5年度 岐阜県林政部予算のあらまし

林政部では、令和4年度からスタートしました「第4期岐阜県森林づくり基本計画」において、「清流の国ぎふ」の未来を支える森林づくりに取り組んでまいります。計画の施策の柱は3本あり、1つ目は「森林づくりの推進」です。近年の豪雨災害により、森林・林業分野でも多大な被害が発生したことを受け、「災害に強い循環型の森林づくり」を推進してまいります。また、担い手不足に対応するため「森林技術者の確保・育成・定着」に引き続き取り組んでまいります。

2つ目は「林業・木材産業の振興」です。昨年12月に制定し、本年4月1日に施行した「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、県有施設や民間施設等の木造化、内装木質化等を進め、「都市の木造化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大」を推進いたします。また、県産材の安定供給に向け、「DXの推進による林業・木材産業改革」を進めてまいります。

3つ目は「森林の新たな価値の創造と山村地域の振興」です。「ぎふ森のある暮らし推進協議会」への活動支援などを通じて、森林空間を活用し、新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業を育成するほか、新たな森林吸収クレジット制度を構築してまいります。また、誰もが身近に「ぎふ木育」を体験できるよう、市町村等と連携したぎふ木遊館サテライト施設の整備支援や、ぎふ木育指導者等のネットワーク化など、「ぎふ木育」の全県展開に取り組んでまいります。

以下、主な事業をご紹介します。

## 重点施策・森林づくりの推進

### 1 激甚化する災害に備えた山地利災力の維持・強化

・ 頻発化、激甚化する傾向にある豪雨災害から、県民の生命・財産を守り林業の振興を図るため、治山施設と森林整備を組み合わせた山地利災力の維持・強化と災害に強い森林作業道の整備を推進します。

(1) 治山施設と森林整備を組み合わせた事前防災地区における山地利災力の強化 (875,074千円)

・ 市町村や林業事業者と連携した事前防災地区を設定し、間伐などの森林整備と、不安定土砂の移動を防ぐための設置等の治山対策を総合的に実施 (2,380,950千円)

(2) 山地利災危険地区における治山施設整備の推進 (2,380,950千円)

・ 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策として治山事業を実施し、土砂災害発生リスクが高い山地災害危険地区の整備を推進 (342,100千円)

(3) 治山施設の災害対応力強化と長寿命化 (342,100千円)

・ 治山施設個別施設計画に基づき既存治山施設を維持修繕するとともに、嵩上げや流木捕捉施設の追加等の機能強化対策を推進 (5,000千円)

(4) 災害に強い作業道づくりの推進 (5,000千円)

・ 既設森林作業道において路盤や排水処理施設の整備等機能強化を支援し、安全性や耐久性を向上

### 2 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

100年先の望ましい森林の姿を示す森林配置計画に沿った森林づくりを促進するとともに、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するため、森林の若返りや二酸化炭素吸収効果の高い早生樹の試験研究などに取り組めます。

(1) 森林の成長を促す間伐への支援 (2,642,377千円) (一部再掲)

・ 森林配置計画の配置区分それぞれの目的に沿った間伐に対して助成 (2,642,377千円)

(2) 若返りを進める再造林への支援 (2,322,695千円)

・ 再造林への重点的支援により、森林の若返りや造林未済地の解消等を促進 (2,322,695千円)

新 (3) 二酸化炭素吸収効果の高い早生樹の試験研究の推進 (2,780千円)

・ 早生樹の活用を推進するため、安定生産に向けた苗木育成資材の開発や新たな樹種(キリ)の実証試験等を実施 (2,780千円)

(4) 防護柵設置等の獣害対策への支援 (8,743千円)

・ シカ等による苗木の食害やクマ等による立木の樹皮被害を防ぐため、防護柵の設置やテープ巻き等に対して助成 (8,743千円)

・ シカ等による苗木の食害やクマ等による立木の樹皮被害を防ぐため、防護柵の設置やテープ巻き等に対して助成 (8,743千円)



### 3 森林経営管理法に基づく市町村による森林管理の支援

森林経営管理制度を担う市町村の取組みを支援するため、地域森林管理支援センターの機能強化を行うほか、精度の高い森林情報を提供します。

- (1) 市町村の林務行政を支援する「地域森林管理支援センター」の機能強化 (20,207千円)
- ・森林経営管理制度を運用する市町村を総合的に支援するため、地域森林管理支援センターの機能を強化
- (2) 森林配置区分に応じた森林整備への支援 (18,366千円)
- ・森林情報を一元化した森林クラウドシステムを活用し、精度の高い情報を市町村へ提供
- (3) 自伐林家が行う森林整備への支援 (20,000千円)
- ・自伐林家等中小規模森林所有者が行う除伐、間伐及び作業道開設等の森林整備に対して助成

### 4 森林技術者の確保・育成・定着

「森のジョブステーションぎふ」を核に就業後のフォローアップ体制の強化などにより人材育成を図るとともに、新規就業者等の作業中の安全を確保するため、労働安全対策に取り組みます。

- 新(1) 岐阜県林業士の能力別資格制度の創設 (1,000千円)
- ・新規就業者から熟練技術者を対象に、木材生産等に関する知識・技術に応じた資格制度を開始
- (2) 就業後のフォローアップ体制の強化 (16,217千円)
- ・「森のジョブステーションぎふ」において、新規就業者の確保と就業後の定着を高めるために労働環境状況の調査等を実施
- (3) 県内で移住する新規就業者への支援 (9,750千円)
- ・県内に移住するため県外から移住した者に対して、移住支援金を給付
- (4) 労働災害レスキュー訓練等の実施 (9,156千円)
- ・作業現場における応急処置や搬送方法を学ぶ労働災害時のレスキュー訓練や、チェーンソーのメンテナンス知識等の基礎を学ぶ講習を実施
- (5) 伐木安全技術評価会の実施 (6,259千円)
- ・伐木安全技術評価会と事前講習会を開催

### 重点施策・林業・木材産業の振興

#### 5 県産材利用促進条例に基づく需要拡大

令和4年12月に制定した岐阜県木の国・山の県産材利用促進条例(令和5年4月1日施行)に基づき、建築物等への県産材利用の促進、人材の育成、県民及び事業者への理解の醸成などを図り、県産材の需要拡大を推進します。

- (1) 県有施設における木造化、内装木質化等の推進 (107,600千円)
- ・県有施設の木造化や教育・福祉関連施設における内装木質化等を推進
- 新(2) フォーラムの開催等によるオール岐阜体制での普及

### 啓発

県産材利用の機運醸成を図るため、県産材利用促進フォーラム(仮称)を開催

- 新(3) 木造建築に関する相談窓口の設置と設計者等の育成 (18,471千円)
- ・都市部の工務店に対し県産材製品の斡旋等を行う窓口を設置
- 「ぎふ木造建築相談センター」において、木造建築の技術的な助言等を実施
- 新(4) 協定締結事業者が行う木造化・内装木質化等への支援 (208,600千円)
- ・県と事業者との「県産材利用促進協定」に基づき、県産材を活用した非住宅建築物の木造化、内装木質化等を支援
- 新(5) 炭素貯蔵量の認定と優良事例の表彰 (1,486千円)
- ・建築物等に利用された県産材の炭素貯蔵量を認定及び公表するとともに、優れた県産材利用事例を表彰

### 6 森林資源の有効活用の促進

「脱炭素社会ぎふ」の実現に向けて、再生可能な資源である木質バイオマスの利用を進めることが求められていることから、林内に放置されている未利用材の搬出と木質バイオマス利用施設の導入を促進します。

- 新(1) 未利用材の搬出経費への支援 (12,650千円)
- ・林業事業者や、市町村と地域住民等が協働して行う未利用材の搬出に対し助成
- 新(2) 木質バイオマスに関する研修会の実施と事業者へのアドバイザの派遣 (1,256千円)
- ・木質バイオマスの熱利用を考える事業者に対して研修会を開催
- ・施設整備を検討する事業者に対してアドバイザを派遣
- (3) 木質バイオマス利用施設の設備導入への支援 (14,000千円)
- ・公共施設や普及効果の高い施設への木質バイオマス設備の導入経費を助成

### 7 需要に合わせ柔軟かつ迅速に対応する木材サプライチェーンの構築

木材生産から加工流通過程のデジタル化や、その情報を基に需給調整を行う体制の構築等を支援し、木材需要の変化に迅速に対応する木材サプライチェーンの構築を図ります。

- (1) サプライチェーンの構築・強化への支援 (3,000千円)
- ・県産材住宅の建設促進に向けたサプライチェーンを構築し、県産材の需給調整や、販路拡大などの取組みを行う団体に対し助成
- (2) 林業事業者等が行うデジタル化への支援 (24,785千円) [3月補正含む]
- ・生産工程管理、在庫管理、受注管理等のデジタル化に取り組み事業者を支援
- ・業務改善を促進するため専門家の派遣等を実施
- 新(3) JAS製品の供給拡大への支援 (1,200千円)
- ・JAS認証材の新規認証、品目追加に取り組み事業者

- (4) 輸入材から県産材への転換への支援 (197,617千円) [3月補正含む] [一部再掲]
- ・木材加工施設等の整備に対し助成

### 8 木材の安定供給と森林所有者への利益還元

ウッドショックのような急激な需給変動に柔軟かつ迅速に対応し、原木を効率的・安定的に供給するため、林道等の整備を推進するとともに、林業事業者による「森林資源の在庫管理や高性能林業機械の導入等を支援します」。

- 新(1) デジタルデータを活用した森林資源の在庫管理への支援 (2,765千円)
- ・林業事業者による「森林資源の在庫管理」の実現に向け、航空レーザ計測結果等のデジタルデータを活用し、木材生産計画の作成を代行
- (2) 林道等路網整備の推進 (1,684,830千円)
- ・市町村が行う林道の整備に対して助成するとともに、基幹的な林道及び林業専用道を県が代行して整備
- (3) 高性能林業機械の導入への支援 (50,222千円) [3月補正含む]
- ・林業事業者による高性能林業機械の購入やレンタル経費を助成

### 重点施策・森林の新たな価値の創造と山村地域の振興

#### 9 新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業の育成

山村地域に新たな雇用と収入機会を生み出すため、森林空間を活用した森林サービス産業を育成するとともに、「脱炭素社会ぎふ」の実現に向け、本県独自の森林吸収クレジット制度を施行します。

- (1) 「ぎふ森のある暮らし推進協議会」の活動支援 (4,138千円)
- ・令和5年1月に設立した協議会が行う広報や会員交流会等の活動を支援
- 新(2) 森林サービス産業の普及啓発と人材育成のための研修会等の実施 (3,513千円)
- ・先進事例の紹介を行うセミナーや、森林空間を活用するうえで必要となる基礎知識を習得するための研修会等を開催
- 新(3) 「仮称」GKクレジット制度の施行 (15,691千円)
- ・カーボン・オフセットによる資金を山元に還元し、森林整備を推進するため、新たな森林吸収クレジット制度を構築し、運営
- (4) クレジット認証制度の普及啓発 (3,975千円)
- ・森林吸収クレジットの認証取得に関するセミナー等を開催するとともに、県営林におけるJKクレジットの認証取得の手続きをマニュアル化し、普及

#### 10 「ぎふ木育30年ビジョン」の実現に向けた「ぎふ木育」の新たな展開

森林・林業に対する県民の意識を醸成するため、「ぎふ木育」と「森林総合教育センター(morinos)」を核として、森や木に親しみ、森とのつながりや森林文化の豊かな段階的・継続的に学ぶ機会を提供します。

- 新(1) 市町村や民間事業者が行うぎふ木遊館サテライト施設の整備支援 (76,400千円)
- ・市町村等が県と連携して、ぎふ木遊館サテライト施設を整備する経費を助成
- 新(2) 「ぎふ木育」関係者のネットワーク化のための地域交流会等の実施 (4,696千円)
- ・地域で活動する木育・森林環境教育の指導者が情報交換を行う交流会等を開催
- 新(3) 地域独自の木育・森林環境教育プログラム等の開発 (1,000千円)
- ・地域版木育・森林環境教育プログラムや木のおもちやを開発
- (4) 「ぎふ木遊館」と「morinos」を拠点とした魅力的なプログラムの開発 (82,214千円)
- ・森や木に親しむ体験等、魅力的で多様なプログラムを開発
- (5) 「ぎふ木育」指導者等の養成 (3,888千円)
- ・木育や森林環境教育に係る指導者の養成とスキルアップに向けた研修等を開催

#### 11 きこのなどの特用林産物の振興

きこの新規生産者の確保、きこの原木の調達、GAP等の認証取得や生産活動に必要な施設整備等に支援を行います。

- (1) 新規就業するきこの生産者への支援 (1,000千円)
- ・生産開始直後の経営安定化のための給付金を支給
- (2) きこの原木調達への支援 (2,200千円)
- ・生産者団体に加入する生産者が県産材のしいたけ原木を共同購入する場合に助成
- (3) GAPや有機JAS認証商品の生産拡大に必要な施設整備への支援 (5,000千円)
- ・きこの生産者によるGAP等の認証取得に必要な施設整備に対し助成
- (4) きこの生産者団体等が行う販路拡大への支援 (3,500千円)
- ・市場内での競争力強化や大都市圏・海外への販路拡大の取組みに対し助成

#### 12 「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した自然環境の保全・再生

管理不足の森林の増加、外来生物の繁殖、水環境の悪化などにより、森林や河川の持つ公益的機能の低下が懸念されていることから「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、自然環境の保全・再生に向けた取組みを行います。

- (1) 森林部門 (80,903千円) [一部再掲]
- ・奥地水源林の間伐、危険な樹木の除去、造林未済地等での早生樹の植栽等の森林整備を支援
- ・啓発効果の高い公共施設等の木造化・内装木質化を支援するとともに、森や木、川に関する環境教育や「ぎふ木育」の推進等を実施 (33,500千円)
- (2) 共通部門
- ・地域団体等が実施する自然環境保全の取組みを支援



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

美濃加茂市の木曾川沿いで、葉の上に花を咲かせるハナイカダを見つけました。

ハナイカダ (*Helwingia japonica*) は北海道の西南部、本州、四国、九州の丘陵帯から山地帯の湿ったところに好んで自生する落葉低木です。

和名のハナイカダは、葉の上に花を咲かせ実を結ぶ様子を、木材を組んで川を下る筏(いかだ)と船頭に見立てた「花筏」が由来です。

ハナイカダは5月頃、葉表の中央に淡緑色の小さな花を咲かせます。雌雄異株であるため、雄株は雄花を葉の中央に数個つけ、雌株は雌花を葉の中央に1〜3個つけます。

花が葉の中央に咲くのは、葉と花序の原基が発生初期から分離せず成長し、葉腋から出た花柄が葉の主脈と合着しているためです。葉がまだ小さいうちは、葉の先端に花蕾がついているように見えますが、葉の成長とともに中央に位置するようになります。雌株にできる果実は秋に黒く熟して甘味があり、小鳥が好んで食べます。

ハナイカダの新芽は柔らかく、菜飯や汁の実、お浸し、炒め物、天ぷらとして好まれます。葉をゆでたり蒸したりすると、マツタケに似た香りがするため炊き込みご飯にも使えます。

地域によっては別名ママコ、ヨメノナミダ、ツツデ、オトコジン

と呼ばれ、ママコとは「飯子、継子」と書き、若芽を菜飯やお浸しにするからとか、葉の上についた花や実を飯粒に見立てたためと言われます。

ヨメノナミダとは「嫁の涙」と書き、これは殿様の使いから「葉に実のなる木を見つけてこい」と命じられた若嫁が、「夜遅くまで山中を探したが見つからず、思わず流した悔し涙が葉の上に落ち、月光に黒真珠のように輝いたものが果実になった」という説話に由来するそうです。

ツツデは「突出」と書き、これは切った茎の中央部を細い棒で突くと、海綿状の髓が突き出されてくるためで、昔はこの髓組織を灯明の芯として利用しました。またオトコジンは「男芯」と書き、上記の棒で突くと中心部の海綿状髓が突き出ることを指しています。

葉や果実は民間薬として下痢止めに、根は咳止めに用いました。

中国では葉を青莢葉(せいきょうよう)、果実を葉上珠(ようじょうじゆ)と呼び、滋養や強壯、止血、下痢、健胃に用いた例があります。下痢止めに用いるには乾燥した葉を、煎じ煮詰めて服用したそうです。また、古い文献には、根系が解毒や消腫に効果があり、特にへびの咬傷にも効くとありますが、これは信じないことが賢明でしょう。



▲葉の上に花を咲かせたハナイカダ





# 山のおじゃまむし



## —毎日が日曜日、大谷翔平選手—【第382回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

後期高齢者の仲間入りをしてから5年。あと少しで80歳だ。今となるとあつという間にすぎた感じだ。当初は毎日が日曜日。好きなことが何でもできると喜んだものだ。ところが違った。体力の衰え。若いころは虫採りで野山を駆けまわったものだが、今はその元気がない。それと気力の萎え。あれだけ夢中になっていたゾウムシに情熱がわいてこない。自宅にあるたくさんのゾウムシ標本をどうするか。これで頭が痛いからである。次は病院通い。内科、外科、整形外科、眼科、歯科、皮膚科などのオンパレードだ。医者へ行けば薬が出る。これを飲む。しかも一日3回だからすごい量だ。こんなに飲むと、逆に体が悪くなるのではないかと感じてしまう。先生は「歩きなさい。頭を使いなさい」と言われる。しかし、散歩は10数年続けているし、昆虫学会誌、昆虫同好会誌などから情報を得たりしていることと、県や国の審査委員を引き受けているので、頭は回転していると思う。今後もこのペースで行くつもりだ。それより心配なのは酒だ。夕食時に飲む日本酒の味は格別だ。これが飲めなくなるとさびしい。それである日医者に「酒は体に悪いでしょうか」と尋ねた。すると先生は「飲みなさい。飲めるうちは青信号。飲めなくなったら赤信号だから病院へ」と言われた。しかし、その後一言。「あなたは歳だからほどほどに」笑みを浮かべて言われた。それと物忘れ。これは痛切に感じる。相手の名前や数日前の出来事が思い出せないことはしょっちゅうある。また、女房からは電気の消し忘れ、道具をもとの場所に戻してないなどの小言を言われ続けている。このような日々を過ごしているうちに、私の月曜日から日曜日までのスケジュールがわかりかけてきた。しかし、毎日が日曜日には程遠いものであった。

× × × ×

まず、私の一日の始まりは6時半に起きて、朝食時にNHKの連続テレビ小説を見ること。現在2本見ているが、これが楽しみ。しかし毎回いい場面で終わるので、次を早く見たい。そんな気にさせてしまう脚本家はすごいとってしまう。そのうちの一本が「舞い上げれ」。あと10回ほどで終了するが、結果はどうなるのか。今から楽しみである。その後は新聞や虫関係の本に目を通したり、標本整理など。午後は庭にいる虫を観察したりテレビやビデオをみたりし、15時頃から1時間半ほど散歩する。帰宅は17時近く。そして夕食。日本酒の熱燗で喉を潤す。

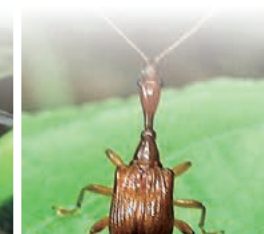
× × × ×

しかし、こんな日は少ない。雑件が次々と入って来るからだ。

無職の私はほとんど対応しているが、断ることもある。それは雨の降っていない日の散歩の時間。前から続けていることと、医者からも強く言われているからである。それに歩いているといろいろな昆虫に出会い、その行動に驚くことがあるからである。散歩コースでよく行くのが自衛隊基地近くにある広場。ここで休憩しながら基地へ帰るジェット機を見るのも楽しみの一つだ。大きな爆音とともに飛び去るジェット機。これが間近で見られるので迫力がある。ここにはカメラを手にした人が多い。ジェット機を撮る人たちだ。多いときは20人以上のときもある。ある日、大きなカメラを担いでいる70歳くらいの老人に話しかけた。「そのカメラいくらくらいですか」、「180万くらいかな」、「写真はどうされるのですか」、「何もしない。家に置いておだけ」。なのにこの人は月に5回以上通っているという。「なぜ、そんなに」とさらに尋ねた。その人は「ジェット機に向かってシャッターを押す。パチパチパチパチ、パチパチパチパチと歯切れのいい音。これが何とも言えない快感。だから何回も来ているのだ」。私は笑いたくなったが、表情が真剣なのでその人にひと言。「すごいですね」。

× × × ×

私の好きなスポーツは大相撲。開催中は毎日テレビの前に釘付けだ。しかし、散歩の時間と重なるので、場所中は午前に変更。ところがそれができない日があった。WBC（野球の世界一を決める大会）で日本は準決勝でメキシコ、決勝戦ではアメリカに勝ち世界一となったときである。試合はテレビで放映されたが、時間が8時から13時まで。たまたま大相撲大阪場所が開催中だったので、この二日間（3月20、21日）は散歩は止めて、テレビとにらめっことなった。WBCは日本が優勝。長年の悲願がなかったのである。これには投打の二刀流の使い手大谷翔平選手の活躍があったからだ、誰も思うであろう。私もその一人だ。特に優勝が決まったあの瞬間は忘れられない。相手の4番バッターとの勝負だ。この打者を抑えれば優勝という場面で、空振りの三振に抑えた。その時の大谷選手の喜ぶ姿。帽子を投げ捨てて大声をあげて走り回っていた。その姿は私を含め多くの人の脳裏に焼き付いているだろう。その時、ふと思った。この名勝負が見られたのは「毎日が日曜日だからだ」。





# ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館では、木製大型遊具や木のおもちゃで自由に遊んで過ごしてもらっていますが、土日・祝日を中心に、季節に合った遊びや木のものづくりなどの木育プログラムを提供しています。それらは、乳幼児から大人まで様々な年齢層を対象として、年間60種類以上にもなります。木育プログラムを通して子どもたちは五感を使って木への愛着を持ち、大人には森と人との関わりに気付いていただきます。今回は2月下旬に開催した2つの木育プログラムを紹介します。

## おはなしおもちゃ劇場

2か月に1度、「ぎふグッド・Toy委員会」のみなさんをお願いして、木のおもちゃや絵本、パネルシアターなどを使って、季節や伝統行事などに関するお話しやパフォーマンスをしていただいています。

この日のテーマは「冬にありがとう、春、待ってるよ」。絵本「ふゆめがっしょうだん」、おはなし組み木「てぶくろ」などを通して、身近な自然・動植物に興味関心をもってもらうことをねらいとしています。途中、親子のふれあいも演出しながら、子どもたちだけでなく保護者のみなさんにも話に聞き入ってもらいました。この日は、県産材で作ったカホン(ペルー発祥の打楽器)も登場し、その音色に、参加者の体も自然に揺れ、木遊館の賑やかな雰囲気と相まって素敵な空間となりました。

また、印象的だったのは、1人の女の子が傍のサワグルミにずっと抱きついてお話を聴いていた姿です(右の写真中央)。大きな木はお母さんのような安心感があるのでしょうか。室内に居ながら本物の樹に触れることのできる木遊館ならではの光景でした。森の中でおはなしおもちゃ劇場をしても、きっとこういう姿が見られることでしょう。



## 君もちびっこ大工さん

ぎふ木育協会に所属するぎふ木育指導員の青山朋子さんに実施していただきました。木を切る体験を通して、モノづくりの楽しさを感じてもらうこと、「作りたい!直したい!」という気持ちにつなげ、モノを大切に作るきっかけにしてもらうことをねらいとしています。

最初に「五感ってなに?」というお話や、材料となるスギのこと、ノコギリの特徴・持ち方・動かし方を伝えます。少し緊張気味だった子どもたちに対し、保育士である青山さんは、質問を投げかけながらうまく声を引き出し、徐々に表情を和らげていきます。

ノコギリを使う場面では、最初に青山さんが実演した後、それを参考に親子で協力して作業してもらいます。体験するのは子どもですが、保護者の方には傍に寄り添い、あて木をしっかりと固定し、必要最小限の声掛けをしてもらいます。これで子どもたちは安心して作業を進めることができます。

今回、「〇〇づくり」のように決まった製作物はありません。自由なサイズで切り、自分で切った分は自由に持ち帰ってもらいました。ある子は「ストラップにするのが楽しみ」と言っていましたし、大きな角材を切った子は、お家できれいに塗装してオリジナルのサイコロを作ってくれた様子をInstagramに投稿してくれました。木遊館での体験が家庭での体験につながったことは嬉しいことでした。







やがてみんなの森になる

# morinos

## プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター (morinos) で実施しているプログラムについてご紹介します!

### <アカデミー教員プログラム「大人の森遊び ブッシュクラフト入門」を開催しました>

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのは「大人の森遊び ブッシュクラフト入門」です。

近年キャンプに代表されるアウトドア活動が注目されており、中でも「ブッシュクラフト」と呼ばれる、森などで自然を感じながらシンプルに楽しむ「生活の知恵」への関心も高まってきています。この講座では「大人の」と題して、森林文化アカデミーに隣接する演習林を舞台に、ブッシュクラフトの基本的な技術であるロープワーク、ナイフワーク、火の取り扱い方、アウトドアでの過ごし方などを実践から学びました。

定員の4倍を超える応募がある中、岐阜県内在住の20代から60代まで幅広い9名に参加いただきました。

まずはロープワークです。1人が講師から結び方を習い、それを別の2人に教えるという方法で5種類の結び方（ひと結び、ふた結び、巻き結び、本結び、自在結び）を学びました。聞いて、見て、やってみて覚えるのが一般的ですが、今回はさらに教えることで、自分が分かっていること、分かっていることがはっきりして理解が深まりました。

次にペグ（杭）づくりを通じてナイフワークを学びました。刃物の取り扱い方の良い例・悪い例を、実例を交えて解説してもらった後、実際に枝をノコギリで切り、ナイフで削ってペグを作りました。



まずは何をするかみんなでシェア  
ワクワクしかありません。



えーっと、こうだっけ？  
いや、こうじゃない？と学び合い



ペグづくりを通じたナイフワーク

昼食後は午前中に学んだロープワークとペグを使って、シートで簡易シェルターを建てました。最後は完成したシェルターの前で、森に落ちている細い枯れ枝を集めて薪として直径20センチ程度の大きさの浅い穴を掘ってのたき火。

たき火の後、新津さんからアウトドアやサバイバル状況下で生命を確保・保持するのに必要な環境の優先順位を理解し、1日の体験を振り返りました。



最小限の道具でタープが完成  
風や日射から身を守ります



穴を掘ることで、熱を蓄え、  
風の影響を受けにくくします



命を守るために大切な優先順位も学びます

参加者からは「覚えたロープワークでシェルターを作ることが出来たのは、とても嬉しくて少し自信が付きました」「木の香りに包まれ、生き返りました」などの感想をいただきました。

こうしたプログラムはmorinosのHPで開催をお知らせしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube  
「morinosチャンネル」



# 坂祝町子育て支援拠点施設(バンビーニ)

加茂郡坂祝町取組字大林35-4



施設全景

## 施設概要

事業年度	令和4年度
事業主体	坂祝町
構造 延床面積	鉄骨造 平屋建 1,055.83㎡
施設用途	子育て支援拠点施設
木材使用量 使用樹種	13.0㎡ スギ
全体事業費	434,911千円
助成額	7,710千円(木の香る快適な公共施設等整備事業)
設計者	(株)ダイナ建築設計
施工業者	(株)栗山組
工期	令和3年6月15日～令和4年9月15日

## 施設の経緯

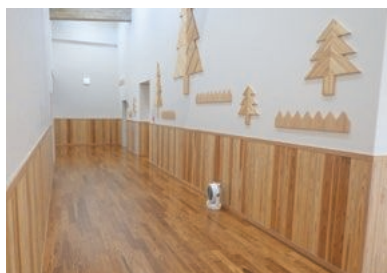
これまで「坂祝町コミュニティセンター」を中心に子育て支援の事業を行ってきましたが、施設が手狭であったこと、建設から30年以上が経過していたことから、新しく子育て支援の専門施設として建設しました。

施設は県産材を活用して内装木質化を行い、木のぬくもりや香りを感じながら子どもたちの成長を見守ることができる施設となりました。



多目的ホール

廊下



## ここに注目!!

建物内全ての床、壁を県産材のスギを用いて木質化しており、ゆっくり、のんびり、ほっとする家庭的な空間となりました。

## 利用者の様子

木に包まれた空間は保護者の方々に好評で、子どもたちも元気にのびのびと活動しています。



保護者控室(カウンター収納)



■問い合わせ先  
坂祝町教育委員会 こども課  
TEL 0574-66-2410



# 私たちの暮らしと身近な自然

## 人知れず消えていく生きものたち

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 津田 格

中に漂っています。

学生と話をしている、小津安二郎監督の「父ありき」という映画を見に行ったことをふと思い出しました。その物語の中で成長した息子が信州で離れて暮らす父のもとに行き、並んで溪流釣りをするシーンがありました。川辺に並んで立つ二人の竿の上げ下ろしが同調し、お互いへの想いが伝わってくる印象的な場面だったのを覚えています。

私は父と釣りをした記憶はないのですが、田舎に帰った際に祖父に連れられて近所のたぬ池に釣りによく行きました。家の裏で伐った布袋竹を竿にし、それに簡単な仕掛けをつけ、ミミズを掘って餌にしていたのですが、夕方のまずめ時になるとギンブナやタモロコなどが面白いように釣れました。夏にはヒシの浮葉が水面を覆い尽くすため、釣りができるのは春からGW頃まででした。ヒバリの声を聴きながら陽のあたる池畔に座り、祖父と糸を垂らしていた情景は今でも記憶に残っています。

時を経て大人になってからふと池に行ったところ、護岸は改修され、誰かが持ち込んだであろうブラックバスが群れ、ヒシなどの水草も見られなくなっていました。必要があつて変化を余儀なくされたものもあるでしょう、ずっと気にしていたからといってどうなるものでもなかったのかもしれない。しかし、失われたものへの思いが激のように心の

身近な自然は人知れず、けれども想像以上のスピードで変わっています。開発などで失われるものも多く、それは目に見える形で捉えることができるでしょう。また前述したブラックバスのような外来種の侵入などもわかりやすい例のひとつだと思います。

外来種はその環境にさまざまな影響を及ぼしますが、私も含め多くの人は普段そのことを気に留めず暮らしています。しかし私たちの日常が外来種の定着につながり、知らないうちに在来種への脅威となつていくこともあります。例えばカマキリの一種ハラビロカマキリ(以下ハラビロ)はそういう状況に直面している種のひとつです。ハラビロは身近な環境で見かけることも多く、子供の頃に捕まえた人もあると思います。ところが最近、よく似た別種のカマキリを見かけるようになってきました。一見普通のハラビロかと見過ごしがちですが、よく見ると一回り大きく、前脚の形態などが異なります。わかりやすい違いは胸部の裏側の色で、手にとってじっくり返してみると赤みを帯びています。

日本で見つかり始めた当初は正体不明のカマキリとして研究者間で知られていました。今では中国大陸からの外来種であること



ハラビロカマキリ(左)とムネアカハラビロカマキリ(右)の胸部の色の違い

が判明しており、前述した胸の色からムネアカハラビロカマキリ(以下ムネアカ)という和名で呼ばれています。このムネアカ、国内では2010年に福井県で生息が初めて報告され、その後、各地で見つかっています(その後実施された多摩森林科学園での標本と写真記録の調査によると、2000年に東京都にいたとされています)。侵入経路を調べ

た研究では、中国製の竹帯に使われる竹の枝に卵が産み付けられて日本に入り、その流通経路から各地に広がったのではないかと指摘

されています。ムネアカは侵入先で在来ハラビロと競合することが懸念されており、ムネアカが侵入した愛知県豊田市周辺では、3年でほぼハラビロがいなくなり、ムネアカに置き換わってしまったとのこと。美濃市の周辺でもハラビロかと思つて捕まえるムネアカだったということが多くなつていす。見つけるたびに駆除しているのですが、在来ハラビロが見られなくなつてしまつても時間の問題かもしれません。

竹製品などの輸入が外来種の侵入経路になつていふと考えられている例は他にもあります。タイワンタケクマバチというハチは名前の通り台湾から中国大陸に分布しているのですが、やはり近年国内各地で定着してしまつていす。共生するダニの種類やDNA解析結果から、国内に入つてきたのは中国の系統であるとされています。直径2〜3cmの竹に穴をあけてその中に営巣することから、中国から輸入される竹製の柄や竹材に入つて運ばれてきたのではないかと考えられています。

またクビアカツヤカミキリやツヤハダゴマダラカミキリ、マツヘリカメムシなどの外来昆虫も近年各地で見つかつており、農林業への影響が懸念されています。これらも意図的に持ち込まれるようなものではないため、何らかの輸入資材について入ってきたものと思われます。

生物は他の種やその場所の環境に様々な影響を及ぼしているため、外来種の侵入が今後どう影響してくるのかは未知数です。かつては地域の自然資源から竹製品をはじめとするさまざまな日用品が作られてきました。なんでも簡単に手に入る便利な時代になりましたが、それと引き換えに自然資源の利用の文化も失われ、さらにハラビロのように在来種がひっそりと消えつつある場合もあります。非意図的な外来種の持ち込みを阻止する対策は重要ですが、私たちそれぞれが身近な自然に関心をもち、かつて共に過ごした生きものに変化は起きていないか、気づくことも大切なのかもしれません。



# 『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取り組みを行っています。こうした取り組みの内容について連載で紹介します。



## 清流の国ぎふ地域活動促進事業 ～住民主体の創意工夫を凝らした森づくり・川づくり～

平成24年度から令和4年度までの11年間で延べ502件の事業が実施されました。  
令和5年度は、55の団体がそれぞれ特色ある事業を実施します。

団体名	事業名
NPO 法人 んふし森守くらぶ	ながら川ふれあいの森・森林整備活動事業
昭和造園土木株式会社	森であそび、森でまなぶ ～子どもも大人もみんないっしょに～
三輪の里山を守る会	恵みの森づくり推進事業
NPO法人 長良川自然学校	長良川 川の学校事業
NPO法人 e-plus 生涯学習研究所	ぎふの川を学ぶ ～SDGsの視点で学ぶ環境のつながりパート2
NPO法人 竹林救援隊	竹林の間伐と放置竹林を無くすための啓発活動
飛騨五木株式会社	川上と川下を繋ぐ焚火イベントの開催と工作を通じた木育活動の促進
長竹会	放置竹林の間伐活用と啓発活動
という	「お山と小川で遊ぼう! IN 山県」
ぎなんプレーパークの会	森を感じよう ～ぎなんプレーパーク～
笠松の自然と共生を考える会	笠松町における生物多様性保全事業
木の駅上石津実行委員会	森林資源の活用
金生山自然文化苑保存会	岩巣公園自然保護活動（「金生山岩巣公園自然と生物」冊子再版）
(一社) んふ地球環境塾	んふ地球環境塾
木曾三川子ども狂言クラブ	木曾三川の治水史跡と清流魚の保全狂言プロジェクト
NPO 法人 山菜の里いび	信長の薬草園再生プロジェクト
「北方憩いの森」整備・活用実行委員会	「北方憩いの森」推進事業
NPO 法人 揖斐自然環境レンジャー	徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦
(一社) いび森のようちえんこだぬき	子どもたちが遊び続ける森づくり
揖斐たけとり会	日本三大美竹林整備活用事業
小津区自治会	小津地域を主体とした森づくり事業
大谷桜公園・里山づくりの会	大谷桜公園 里山づくり推進事業
里山クラフトサークル	おとなと子どもの里山クラフト体験
関市広見交遊会	関広見! Cふれあい遊歩道整備事業
エゴノキプロジェクト実行委員会	エゴノキプロジェクト
郡上漁業協同組合	第13回長良川源流の森育成事業
明宝ジビエ研究会	明宝の森とエコサイクル推進事業
(一社) DRC 協会	水中ドローンで見直す清流の水環境
金谷里山整備支隊	ボランティアの力で荒廃地竹林伐採し里山再生するぞ!
大洞里山整備隊	森の学校実施事業
(一社) こどもの庭	森のようちえんにおける里山整備および環境教育、子育てサロン事業
(一社) 加茂野町まちづくり協議会	カナクス山(通称稲辺山)登山道整備事業

団体名	事業名
三和まちづくり協議会	みわまちづくりプロジェクト
川合まちづくりの会	子どもたちに引き継ぐ川づくり推進事業
木曾川左岸遊歩道友の会	木曾川左岸遊歩道等周辺整備事業
半布里の郷	富加町の自然を守る里山整備活動
可茂森林組合	R5可茂南部100年の森林づくりプロジェクト【エコ薪】でCO2削減せよ!
NPO法人 美濃白川どんぐり会	落葉樹林 植林・育成、河川環境保全事業
中山道新作狂言プロジェクト	中山道新作狂言プロジェクト
小里川ダム里山教室	2023秋の小里川ダム湖周ウォーキング
加子母むらづくり協議会	学びの森 木の匠育成事業
いのちもり	森と暮らしの学校事業
ひるかわ里山活性化委員会	里山活性化事業
付知町優良材生産研究会	未来を担う中学生への森林環境教育
NPO法人 奥矢作森林塾	松本地区における森づくりと担い手づくり活動
土岐川庄内川源流の森委員会	源流の森と里山里地の整備と担い手育成事業
中切区里山環境整備活動組織	中切区里山整備事業
NPO法人 活エネルギーアカデミー	山の恵みと共存するプロジェクト
二本木生産森林組合	飛騨高山「彦谷の里」里山活用と広葉樹林育成事業
NPO法人 飛騨高山わらべうたの会	森林環境教育推進事業
ひだの未来の森づくりネットワーク	森林に関わる地域情報発信活動
森の自然学校	清流の森づくり 2023
森守クラブ合同会社まつぼっくり	里山の資源を活用した里山づくり推進事業
高山南の森保全の会	高山南エリア里山林整備事業
飛騨漆の森プロジェクト	飛騨漆の森づくり推進事業

●令和4年度実施事業



(一社) いび森のようちえんこだぬき  
(子どもたちが遊び続ける森づくり)



という  
(小川で遊ぼう! IN 山県)



# 伐採及び伐採後の造林の届出制度のお知らせ

森林を伐採・開発しようとするときは、森林法第10条の8の規定により、事前に「伐採及び伐採後の造林の届出書(以下伐採届)」、伐採及び伐採後の造林を行った場合には事後に「伐採に係る森林の状況報告」、「伐採後の造林に係る森林の状況報告」の提出が必要です。

森林法施行規則の改正により、令和5年4月1日から伐採届への書類の添付が義務化されました。必要な書類を全て揃えたうえで、各市町村の窓口へ提出してください。

※間伐する場合には「伐採に係る森林の状況報告」及び「伐採後の造林に係る森林の状況報告」の提出は不要です。

※伐採後に森林以外に転用する場合には「伐採後の造林に係る森林の状況報告」の提出は不要です。

## Q. 届出・報告の対象となる森林は?

対象となる森林は、地域森林計画の対象となっている民有林です。

地域森林計画対象森林は岐阜県HP「ぎふ ふおれナビ」(<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2264.html>)で確認することができます。

なお、保安林の伐採や林地開発を行う場合は、手続きが異なりますのでご注意ください。

## Q. 誰が提出するの?

### ① 伐採届

「伐採届」は、森林所有者もしくは伐採をする(権原を有する)者が提出します。伐採をする(権原を有する)者と造林をする(権原を有する)者が異なる場合は連名で提出します。

添付計画書

- 「伐採計画書」は、伐採をする(権原を有する)者が提出します。
- 「造林計画書」は、造林をする(権原を有する)者が提出します。

### ② 状況報告書

- 「伐採に係る状況報告書」は、伐採をする(権原を有する)者が提出します。
- 「伐採後の造林に係る森林の状況報告書」は造林をする(権原を有する)者が提出します。

## Q. いつ、どこへ提出するの?

・伐採届は、伐採を開始する日の90日から30日前までに。

・状況報告書は、伐採が完了した日から30日以内、造林(天然更新)が完了した日から30日以内に。

① 伐採及び伐採後の造林の届出：伐採を始める90日から30日前まで

② 伐採に係る森林の状況報告：伐採を完了した日から30日以内

③ 伐採後の造林に係る森林の状況報告：造林を完了した日から30日以内

※対象森林の所在する市町村に提出します。

## Q. 添付書類は?

伐採届には伐採箇所を示した位置図等の添付をお願いします。

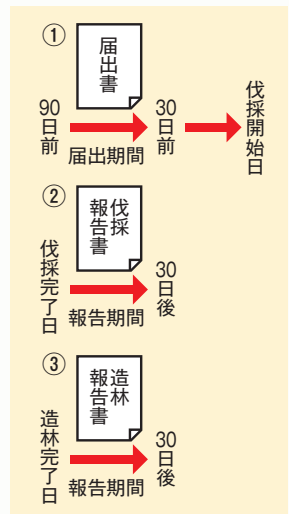
- ① 森林の位置図・区域図：届出対象の森林の位置および伐採区域がわかる図面
- ② 届出者の確認書類：個人は氏名・住所のわかる書類の写し、法人は法人番号が記載された書類
- ③ 他法令の許認可関係書類：他行政庁の許認可が必要な場合、申請状況がわかる書類(該当する場合のみ)
- ④ 土地の登記事項証明書等：土地の登記事項証明書や固定資産税納税通知書の写しなど
- ⑤ 伐採の権原関係書類：伐採する権原を有することがわかる書類(届出者が土地所有者でない場合)
- ⑥ 隣接森林との境界関係書類：隣接森林所有者との確認状況がわかる書類

※以下のいずれかに該当する場合には、添付を省略することができます。

- ・単木的な伐採など境界に隣接しない場合
- ・境界杭などにより境界が明らかな場合
- ・契約書の提出等により届出伐採前に境界確認を実施することを明らかにした場合

⑦ 市町村長が必要と認める書類：市町村が実情に応じて条例などに定める書類

書類の添付は義務となりますので、該当する場合には、必ず添付をお願いします。詳しい内容については、林野庁のホームページをご覧ください。



# 伐採旗設置制度のお知らせ

皆伐(普通林は1ha以上)を行う場合は、伐採旗を設置してください。

## Q. 制度の目的は?

合法伐採を行う目印として伐採旗を設置し、合法伐採箇所の判別を容易にすることで、違法伐採の防止を図るとともに環境に配慮した伐採を進めます。

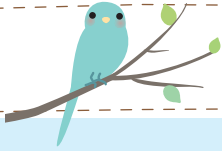
## Q. 制度の概要は?

下記の伐採を行う現場に伐採者が伐採旗を設置します。

種類	普通林	保安林
旗の設置対象	1ha以上の皆伐	全ての皆伐
設置する旗	伐採届出旗	伐採許可旗
旗の交付者	市町村	県(農林事務所)
設置期間	伐採開始日～造林完了まで	伐採開始日～伐採終了まで



●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8471 林政課森林計画係まで



# 野鳥のヒナを拾わないで！

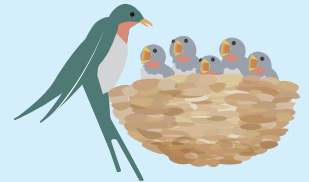
春から初夏にかけては野鳥の子育てシーズンです。勝手に野鳥を飼うことは法律で禁止されています。でも、もし、人間が野鳥のヒナを拾って育てるとどうなるでしょうか。

人間は、ヒナにエサの取り方や、天敵からの身の守り方などを教えることはできません。人間に育てられたヒナは自然の中で生きる方法を知らずに育つため、二度と自然に戻れない鳥になってしまいます。

また、安易に野鳥を餌付けすると、人慣れして人間の食べ物を狙う、餌場に密集することで感染症の拡大を招く、渡りの時期が狂う、増えすぎて生態系に影響を与えるなどが心配されます。安易な餌付けはしないでください。

## ツバメの巣が落ちてしまった！

カップ麺の容器やザルに、ちぎった新聞紙などの代用巣材を敷いて、その中にヒナを入れ、元の巣の位置から近い場所にひもやガムテープで固定しておく方法があります。



●詳しい内容を知りたい方は [TEL 058-272-8231](tel:058-272-8231) 環境生活政策課 生物多様性係まで



## さざれ石公園を知っていますか

山林協会通信<sup>12</sup>



平成27年10月に揖斐郡揖斐川町谷汲地内で開催された第39回全国育樹祭の会場跡地（現：揖斐すめらぎの森）に、育樹の碑（左の写真）があります。この碑の左下にある小さな石が固まったような大きな石が「さざれ石」です。「さざれ石」は、岐阜県指定の天然記念物で、『日本の七高山、伊吹山のふもとにあり、学名を石灰質角礫岩と言います。これは石灰石が長い年月の間に雨水で溶解され、そのとき生じた粘着力の強い乳状液（鍾乳石と同質）が次第に小石を凝固して、だんだん巨石となり、河川の浸食作用により地表に露出し、苔むしたものです。平安時代に親王の使いとしてきた藤原朝臣石位左衛門（ふじわらあそんいしいざえもん）が、古屋笹又という谷間で、溪流に露出する「さざれ石」を見て「これは珍しい石、目出度い石である」と見たまま、感じたまま、詠んで奉った歌が国歌のもととなった「わが君は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすまで』（揖斐川町HPより）だそうです。揖斐川町春日にある「さざれ石公園」に行くと写真のような大きなさざれ石を見ることができます。平安時代の歌の元となった石ではないと思いますが、一度訪れてみてはいかがでしょうか。



【山林協会 瀬上】



# 令和4年度 岐阜県治山林道技術成果発表会

令和5年2月17日、関市わかさ・プラザ多目的ホールにおいて、令和4年度岐阜県治山林道技術成果発表会を開催しました。本発表会は、3年ぶりに治山林道研究会員及び治山林道業務に携わる者が参集しての開催となり、参加者115名が、熱心に各発表及び話題提供者による講演を聴講しました。

発表会は、令和2年度の動画配信によるリモート開催より、優秀発表を治山、林道それぞれの部門毎に、参加者の皆さんが投票して決める方式に変わり、また今回から質問時間を長くとり、より聴講者参加型の発表会になりました。発表は、治山部門が3題、林道部門が2題あり、内容は、現在、治山林道が抱える課題の解決や森林土木の技術向上に繋がるもので、投票用紙のアドバイスや感想欄には、それぞれの発表に対して、多くのコメントが記載されており、各発表への関心の高さが伺えました。

## 治山発表課題

### 【最優秀賞】

課 題	発 表 者
治山施設の復旧工法	下呂農林事務所 藤井 雅之 (研究グループ：東濃、恵那、下呂、飛騨)
治山施設機能の長期保持を図るため、施設の損傷の中で大きな割合を占める「洗掘」に着目し、治山担当者間での知見共有を目的に過去事例を紹介した。	

### 【優秀賞】

課 題	発 表 者
現場遠隔確認システムの活用について	西濃農林事務所 白川 拓巳 (研究グループ：西濃、揖斐、中濃、郡上、可茂)
現場確認に伴う移動時間縮減や経験の浅い職員による現場指示の課題解決のため、現場遠隔確認システム活用の有効性を検討し報告した。	

### 【優秀賞】

課 題	発 表 者
岐阜市鶯谷地区の災害対応について	岐阜農林事務所 小山 凌平 森林保全課 畑中 慎 (研究グループ：県庁、岐阜)
令和4年8月の豪雨で発生した山腹崩壊の復旧において、応急対応や県の防災体制の構築、関係機関との調整事例を紹介した。	

## 林道発表課題

### 【最優秀賞】

課 題	発 表 者
路体安定処理工に対する一考察	下呂農林事務所 榎田 俊治
林道開設工事における残土処分量を軽減するため、低品質の建設発生土を現場内流用対策として実施した路体安定処理工を紹介した。	

### 【優秀賞】

課 題	発 表 者
林業専用道の新規計画に向けた取組みについて	郡上農林事務所 脇谷 すみれ
大型製材工場の稼働による木材需要の高まりから林業専用道を主体とした事業採択に向けて、県と市及び林業事業者で構成する路網整備推進会議での取り組みを紹介した。	



発表の状況



治山、林道発表者



## 花の形の意味を考える

森林研究所 ● 宇敷 京介

皆さんは、花というところのどのような形を思い浮かべますか。タンポポのようにお皿に似た形の花、ツバキのようにお椀に似た形の花、ツリガネソウのような鐘に似た形の花など、花といっても様々な形をしています。

### 植物にとって花とは

植物にとって花とは繁殖器官、つまり、子孫を残すための非常に重要な器官です。基本的な構造は外側から、がく、花びら、おしべ、めしべと並んでいます。おしべの先に花粉があり、それがめしべの先の柱頭に付着して受粉します。植物は自分で動くことはできないので、花粉を風や動物（虫や鳥）を利用して運んでもらう必要があります。特に、動物に運んでもらう場合、動物が訪れるような魅力（蜜や匂い）と訪れた動物に花粉をつける仕組みが必要で

### 花の形と送粉者の関係

花の持つ魅力の1つである蜜は、花に訪れる者にとってのご馳走であり、花粉を運んでくれる者（送粉者）のために用意したものです。蜜をつくるのはただではないので、花は送粉者のみが蜜を得られるように工夫します。また、送粉者も花から蜜を得ることができるような体のつくりを備えています。

### ツリフネソウを例に考える

ツリフネソウはやや明るい湿った林縁に生える草本で、花は筒状で紅紫色をしています（図・1）。分解すると、図・2のように構成されています。筒状になったがくの奥は細く巻き、奥に蜜を貯めています。訪れた昆虫が蜜を得るには、筒に潜り込み、奥まで届く長いストロー状の口を伸ばす必要があります。過去の研究から、ツリフネソウの送粉者はトラマルハナバチ（以

下、トラマル）と報告されています。実際、野外で観察するとツリフネソウを訪れる昆虫の多くはトラマルでした（図・3）。トラマルは、前面に垂れ下がった2枚の花びらに着地し、筒に潜り、中でストロー状の口を伸ばして蜜を吸っていました。訪花したトラマルは、おしべ、めしべと接触し、オレンジ色の毛で覆われた胸の背面は花粉で白くなっていました。このことから、ツリフネソウはその花の形により、花に訪れ、蜜を獲得できる昆虫とその昆虫の行動を制限し、繁殖していました。



図.1 ツリフネソウの花



図.2 分解したツリフネソウの花 3つの花びらと3つのがく、おしべ、めしべで構成



図.3 ツリフネソウを訪花するトラマルハナバチ

ここではツリフネソウを例として送粉者との関係から花の形を考えてみました。実際の野外ではトラマル以外にも、他のハナバチやミツバチ、ガの仲間、鳥類などが様々な花の送粉者を担っています。送粉者の形が様々あるので、それに応じて花の形も多様であるのです。

### おわりに

植物と動物の関係は、ここで紹介した送粉の他にも、種子散布などで密接に関係しています。最近の岐阜県の森林づくり基本計画では、針広混交林への誘導が施策に盛り込まれています。広葉樹が生態系の中でどのような生育をしているのかを把握していくことは、今後の広葉樹の更新を図る上で重要な知見となると考えています。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで





鈴木さん

# 常に学びを続け、 自分の世界を広げよう！

(株) 岐阜緑地

すずき やすのり  
**鈴木 康範**さん

岐阜県伐木安全技術評価会2020 中堅技術者の部：優勝

岐阜県伐木安全技術評価会2022 プロフェッショナルクラス：優勝

今回は、岐阜県伐木安全技術評価会で過去3大会のうち出場した2回とも優勝し、会社としても3連覇を達成されている、(株)岐阜緑地の鈴木康範さんに、競技会のこと、若い技術者の方々に伝えたいことなど、いろいろとお話を伺いました。

## 競技会に興味を持ったきっかけは？

初めて参加したのは、平成26年の秋に全国育樹祭の1年前イベントの一環として岐阜県庁前で開催された「育林技術競技会」です。こんな世界があるのかと興味を持つきっかけとなったイベントでした。その後、日本伐木チャンピオンシップ(以下「JLC」)の動画で興味は持っていました。なんとなく二の足を踏んでいました。

そんな折、令和2年の秋に「岐阜県伐木安全技術評価会(以下「県評価会」)が開催されることとなり、参加したところ、ありがたいことに優勝することができました。

## その後、JLCに参加されたのですか

実は、県評価会に参加するにあたって、得点が千点を超えたら、次は全国へ挑戦してみよう、と心に決めており、幸い千点を超えることができたため、いよいよJLCに初挑戦することになりました。実際に参加してみて、岐阜県では1位



でもJLCでは上位にも食い込むことができず、改めて全国のレベルの高さを痛感させられました。

## 競技会に参加されて得られたものは？

何より、世界が広がった、ということがとても大きいです。県内各地の森林技術者の方々とも様々な繋がりを持つことができ、さらにJLCでは全国にも仲間ができました。

また、最近は講師として声をかけてもらったり、アカデミーなどいろいろな方々と一緒に練習したりと本当に世界が広がりました。



## 参加を経て意識は変わりましたか？

仕事への意識は間違いなく変わりました。以前は、言い方は悪いですが伐倒できればいい、というくらい感覚だったのですが、競技会を経て、常に技術面の基準、正確さや効率、安全面を意識した仕事ができるようになりました。

## 競技会など今後の活動予定は？

県評価会については、今後は選手ではなく大会サポートにまわる考えで、審判にも挑戦していきたいと思っています。

JLCについては、やはりリベンジをしなければならぬと思っていますので、そちらについては引き続き挑戦していくつもりです。その他、指導的な立場のお仕事もいただくようになって、これからの展望が見えてきたように思っています。



## 若い森林技術者の方々にメッセージをお願いします！

若い方々に伝えたいのは、林業の世界だけにとどまらず、常に学びを続け、自分の世界を広げよう、ということです。私にとって大きかったのは競技会への挑戦ですが、これからもまだまだ学び続けたい、挑戦し続けたいと思っています。山師としての技術や視野を広げるだけでなく、人生を豊かにすることにも繋がるので、皆さんにもぜひ自ら努力して学び、林業だけに限らず、新しいことに挑戦し続けて欲しい、そう思います。



● 詳しい内容を知りたい方は森のジョブステーションぎふの「森のしごとストーリー」を併せてチェック！

● 本記事についてのお問い合わせは、

TEL 058-214-7409

岐阜農林事務所林業課まで



# 岐阜県地域森林監理士養成研修



■森林文化アカデミー  
森林技術開発・支援センター 普及企画係  
林業普及指導員 森 孝博

## はじめに

岐阜県では、地域における森林の管理及び経営に必要な専門知識を有し、市町村林務行政への支援や民有林経営の助言等を行う「岐阜県地域森林監理士」の養成及び認定を行っています。岐阜県立森林文化アカデミーでは平成29年度から、「岐阜県地域森林監理士」の養成を行うための研修を企画・運営しています。

## 令和4年度の研修開催状況

- ① 研修生人数…5名
- ② 研修期間…令和4年6月6日～10月27日(延べ16回)

## 研修内容の紹介

研修内容は、国外情勢、国施策、県施策、倫理法令、森林計画、森林経営管理制度、林業経営、路網整備、防災、更新、野生動物管理、木材利用、バイオマス利用、木材流通の全14項目に加えて地域課題研修(実技)と多岐にわたります。今回、研修の内容の一部について紹介します。

## 森林経営管理制度(森林経営管理法)研修

森林経営管理制度は、管理が行われていない森林について、市町村が仲介役となり、地域の関係者や民間事業者と連携しながら、適切な森林の経営や管理を進める制度です。この制度では市町村の役

割が大きく、市町村林務行政を支援する「岐阜県地域森林監理士」の活躍が期待されています。



①森林経営管理制度の研修

研修生は、林野庁が作成した映像資料を視聴し、続いて、岐阜県の担当課である森林活用推進課から補足説明や県の支援等について学んだ後、意見交換を行い、理解を深めました。

## 路網整備・防災研修

森林研究所の研究員を講師に招き、山地災害リスクを考慮した森林管理について学びました。

まず、座学において、森林の多面的機能、日本及び岐阜県の地形の特徴、路網作設や森林伐採と崩壊の関係から、山地災害リスクに配慮した事業地選定の重要性について学びました。

崩壊危険地形の特徴として崩壊3条件が揃うと、災害のリスクが大きくなるということを理解しました。

- 【崩壊3条件】
- ・急傾斜である
  - ・流れる土がある⇨地盤が風化している
  - ・土を流す水がある⇨地下水が多い

崩壊の3条件を踏まえ、郡上市内において、現地研修を実施しました。

現地研修においては、CS立体図を見ながら実際の崩壊危険地形を解説、水分の多い土壌を好んで生育する植物の解説、崩壊前に見られる移動体の特徴と樹木の関係、断層地形(地盤が風化しやすい)の見分け方などについて学び、現場を「観る(観察し、判断する)」ことが大切であることを理解しました。



②郡上市内での現地研修

## 地域課題研修

研修生には実技として「地域課題研修」に取り組んでいただきました。



この研修は研修生が所属・活動している地域の課題を整理し、「岐阜県地域森林監理士」としての視点に立ち、地域の関係者らとともに、対応策を検討し、それらを地域に政策提案するものです。

今年度は、市町村が行う森林経営管理制度に関する提案が2つあり、ともに、意向調査する地域の優先順位、全体計画に関する提案が行われました。これにより、整備が遅れた森林の整備が進むものと期待されます。

また、林道の機能強化に関して、過去の被災状況や関係者からの意見を参考に、被災原因の確認、林道機能強化工法、実施個所の選定などの提案が行われました。これにより、林道の機能強化が図られるものと期待され、市町村の令和5年度の予算にも盛り込まれることになりました。

そのほか、地域において、人工林を伐採し、地元小売業者や市町



③地域課題研修の市町村への提案

村、若手林業家らと協力して、モミジやカツラなどの広葉樹を植栽する森づくりプロジェクトの提案や市町村有林の皆伐跡地への再造林に関する提案が行われました。

### 最後に

令和4年度の研修修了生5名は、その後の岐阜県地域森林監理士認定試験に合格し、「岐阜県地域森林監理士」に認定されました(当号の3ページをご覧ください)。今後の各地域での活躍を期待しております。



④修了式

なお、令和5年度も引き続き岐阜県地域森林監理士養成研修を実施する予定です。研修内容、受講対象者など詳しくは、森林文化アカデミー森林技術開発・支援センター普及企画係までお問い合わせください。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-35-26000

森林文化アカデミー

森林技術開発・支援センター 普及企画係まで

## スマート林業通信 35

### 全国初トランシーバー通信システム

本内容は1月24日の中部森林技術交流発表会(中部森林管理局の発表会)で全国初の取組として発表されたものです。

林業の現場は携帯電話の通信圏外が多く、事故発生時に発見が遅れると重大災害につながるため、通信手段を確保しておく必要があります。

携帯電話の通信圏外における通信手段確保の取組も市町村や林業事業者によって事情が異なることから、普及の方針として複数の機器を用意し、選択肢を設けることが大切と考えています。

そこで、LPWA通信機器を補完するため、先に導入したジオチャットと、通話を可能にするトランシーバーを併用するシステムを導入しました。

このトランシーバー通信システムは音声通話の他に位置情報(精度の高いGNSSに対応)、LPWA通信機器のアプリを活用してチャット、ポイント情報、危険範囲情報を送ることが出来ます。通信距離は約5kmで森林技術者の安全を確保するだけでなく、林業の

生産性向上にも役立つシステムです。

利点として、音声通話ができること。トランシーバーは初めて使う人にもなじみやすく、普及しやすいと考えています。

令和5年度はこの2種類の機器(ジオチャットとトランシーバー通信システム)のそれぞれの長所、短所を紹介し、現場実装に向けた研修会を企画していきます。



トランシーバー通信システム

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-35-26000

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで



# 岐阜森林管理署で インターンシップを実施

中部森林管理局では、学生が実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としてインターンシップを実施しています。

インターンシップの受け入れは、中部森林管理局のほか地域の森林管理署でも実施しており、岐阜森林管理署においても、2名の実習生を受け入れ、2月20日～21日の2日間で行いました。

## 【1日目(2月20日)】

署内で開講式、オリエンテーションを実施後、七宗国有林へ移動し、午前中は管理用務実習として、国有林野の貸付箇所を見学しながら貸付や返地の手続き、国有林野の巡視や境界の巡検などについて説明しました。

午後は野生鳥獣被害対策実習として、囲い罠や箱罠、防護柵、幼齢木保護資材などを見学しながら、ニホン



くくり罠設置の体験

シカ被害の現状や対策について説明し、実際にくくり罠の設置の体験を行いました。

また、8月に新築された森林技術支援センターを訪問し、庁舎の内外装等に使用されている国内産の杉材を使ったCLT(直交集成板)やペレットボイラーなどを見学しました。

## 【2日目(2月21日)】

2日目は寒波の影響で積雪もあり、たいへん寒い日となりましたが、午



治山工事現場の見学

前中は下呂市小坂町の大洞国有林内の治山工事(山腹工・溪間工)の現場で治山事業実習を行い、工事概要や監督業務について説明した後、実際に現場の計測等を実施しました。

帰りには、赤沼田天保林を見学しました。この天保林は、江戸時代末期の天保14年頃にヒノキを主として植栽された林齢170年を超える人工林です。

午後は下呂市馬瀬の川上国有林内の造林地で造林業務実習を行い、造林業務におけるニホンシカ対策や課題、監督業務の内容について説明しました。実習中にはシカの鳴き声も聞こえ良い体験をしていただけただけではないかと思えます。

最後は署内で6名の若手職員との意見交換会を開催しました。福利厚生、給与、異動などの労働条件や職

場環境のことから、山間地での普段の生活など様々な話題となり、実際に就職した後の具体的な内容を知ってもらう良い機会となりました。

実習生からは、「森林管理署の仕事内容を現場で学ぶことができ非常に勉強になった」「自分の学んでいることをどのように活かせるのかを考える良い機会になった」「実際に職員の方々とお話する中で職場の雰囲気を感じる事ができた」といった感想と御礼の手紙をいただきました。



造林地の見学

インターンシップは、毎年、夏期(7月～9月頃)、春期(2月～4月頃)に実施しています。

森林管理局の業務を体験できる貴重な機会ですので、興味をお持ちの学生の方は、ぜひご応募ください。

(岐阜森林管理署)



開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所 申込(問合せ)先/TEL
5月10日(水)	チェーンソーを用いて行う 伐木等の業務従事者 安全衛生教育 (3~5年従事者再教育)	●講習時間：学科・実技 8:50~16:50 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：12,430円(本代含む)(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月16日(火)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間：学科 8:55~15:20 実技 15:30~16:30 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：11,550円(本代含む)(振込み) ●定 員：40名(定員になり次第締め切ります。)	J A ひだ吉城営農センター(飛騨市古川町上野 571-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月17日(水)~ 5月19日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間：17日 学科 8:50~17:10 18日 学・実 8:50~12:00 19日 実技 8:30~17:40 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ●定 員：40名(定員になり次第締め切ります。)	17日(学科) 18日(学・実) J A ひだ吉城営農センター(飛騨市古川町上野 571-1) 19日(実技) 県森連飛騨林産物共販所(高山市新宮町 112-7) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
6月1日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間：学科 8:55~15:20 実技 15:30~16:30 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：11,550円(本代含む)(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。)	郡上森林組合(郡上市八幡町稲成 525-7) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
6月14日(水)~ 6月16日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間：14日 学科 8:50~17:10 15日 学・実 8:50~12:00 16日 実技 8:30~17:40 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。)	14日(学科) 15日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 16日(実技) 県森連岐阜林産物共販所(関市倉知字物見山(予定)) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
6月20日(火)~ 6月21日(水)	走行集材機械の運転業務 特別教育	●講習時間：20日 学科 9:00~16:00 21日 実技 9:00~16:00 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：46,200円(本代含む)(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。) (学科及び実技一部免除者を含む。実技講習は10 名単位の開催となりますので実技受講者が10名 以上の場合は翌日になりますのでお問合せ下さい。)	20日(学科) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 21日(実技) 関市地内山林(予定) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



**コラム** 昨年9月の日曜日に飛騨市と白川村の境、東海北陸道の飛騨トンネルの真上にある初糠山に登ろうと飛騨市河合の天生県立自然公園に行きました。入山受付に行くと以前飛騨市森林組合に勤めていた人に出会いました。その人はこれから公園内の整備に向かうため、途中まで一緒に歩き、山野草の名前、昔食料にしていた野草の事など教えていただきました。また30年程前に岐阜市で森林組合の会議後、他の職員とともに飲酒した話など懐かしい昔話に花が咲きました。

高山植物群、高層湿原、ブナ原生林、深淵な溪谷など雄大な自然を体感できる自然公園の1年は、6月初旬ミズバショウの時期に開園し、11月初旬紅葉の終りとともに閉園の予定です。6~7月は特に花の多い時期で色々な花を観賞することが出来ます。

湿原のある自然公園は、訪れた人の思い出に残る美しい場所だと思います。

「森林のたより」編集委員 山下 篤志

イベント情報

6月1日発行

連載

- 山の歳時記(214)
- 山のおじゃまむし(383)

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(125)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(123)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

6月号  
予定

## 木材市場

**木材市況** 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所  
単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配	
第1820回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	16,700	—	→	
		4 m	16~18cm	15,400	—	→	
			20~22cm	16,200	—	→	
			24~28cm	16,200	—	→	
		30cm以上	15,300	20,000	→		
	6 m	16~18cm	—	—	→		
	4月11日	ひのき	3 m	16~18cm	23,100	—	→
			20cm以上	20,700	—	→	
		4 m	16~22cm	22,200	—	→	
			24~28cm	19,900	—	→	
30cm以上			19,700	35,000	→		
6 m	16~18cm	—	—	→			
第1407回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	16,500	—	→	
		4 m	24~28cm	16,000	—	→	
			30cm以上	15,000	—	→	
	ひのき	3 m	16~18cm	23,000	—	↘	
		4 m	20~22cm	21,000	—	↘	
			24~28cm	19,500	—	↘	
			30cm以上	19,000	—	↘	
		6 m	16~20cm	30,000	—	↘	
	4月5日	ひめこ	4 m	24~28cm	20,000	—	→
			30cm以上	15,000	52,800	→	
5 m		30cm以上	—	—	→		
くり	4 m	24cm以上	15,000	41,200	→		
第1739回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	16,500	—	→	
		4 m	24~28cm	15,800	—	→	
			30cm以上元	15,000	22,000	→	
	ひのき	3 m	16~22cm	21,500	—	→	
			24~28cm	19,800	—	→	
			30cm以上元	25,000	53,000	→	
		4 m	13cm以下	10,000	—	→	
			24~28cm	19,000	—	→	
	4月6日	まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→
				30cm以上元	11,000	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

### 【商況】

スギは全体的に軟化気配の中ではあるが、相場を維持し保合で推移。4m元木、尺上良材については応札多数。スギラミナ向け3m・4m材は保合であるが、弱含みの気配。ヒノキ元木、尺上良材3m・4m役物取りは引き合いは強いが、節物、目荒材は売りづらく、また曲材も同じく弱含み。製紙向けバルブ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ、ヒノキ共並材が多く横ばいの展開で推移。ヒメコは応札旺盛で特に大径木良材に人気が集まった。広葉樹はどの樹種も引き合いが強く特にサクラ、エンジュに人気が集まった。高値はヒノキ3m×48cm@46,000円、ヒメコ4m×56cm@52,800円、クリ4m×36cm@41,200円、マクルミ4m×28cm@33,000円、エンジュ3m×26cm@52,800円。(飛騨)

全般的には製品市況の値下がり危惧し、当用買い中心の展開となった。ヒノキ元木良材2・3・4m尺上、40cm上役物取りは引き合いが強く、強保合。節物、目荒材は売りづらく、曲材も同じく弱含み。3m柱向け(14cm~24cm)は相場を堅持したが弱含み基調は継続。4m中目は売りづらさもあり弱保合での展開となった。スギ4m中目尺上元木良材は保合で推移してきたが弱含み基調。3m・4m構造材向けは、軟化気配の中ではあるが、相場を維持し保合。合板向けは製品荷動きが鈍く弱基調、特にヒノキ、カラマツは原木受入調整が一段と厳しく継続している。(東濃)

### 製品卸売標準価格 (3月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m <sup>3</sup> 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	85,000	( 2,811)	→
	間柱	3000	105	30	1等	85,000	( 803)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	( 2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	85,000	( 3,672)	→
		6000	120	120	特等	165,000	( 14,256)	→
W ウ ッ ド 材	柱	3000	105	105	国産5層	106,000	( 3,500)	↘
		3000	120	120	国産5層	109,000	( 4,700)	↘

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

### 外材市況 (3月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	468	↘
	コスト(目荒)	468	↘
米楯	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コストのみ大阪相場)

### いちうり 市売

これってなあに? ~ 木材用語 ~  
市売は、市場で問屋もしくは市場が複数の買い手に対して、せりによって値段を決めて販売する方法。付売は、売り手と買い手が個々に値段を決めて販売する方法。市売は価格公開が原則。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典